

第8回研究大会（新潟産業大学）の概要

金 田 一 郎（大会実行委員会委員長）

環日本海学会第8回研究大会は、2002年10月26日及び27日の両日、新潟産業大学において開催された。最初に、本多健吉会長より開会の挨拶がなされた。韓国東北亜経済学会からは、檀国大学校産業経営大学院長・金世榮先生、江南大学校・許允先生、慶南発展研究院・鄭大喆先生をお迎えした。

第一日の26日は、本学会と「環日本海大学連合」（国際シンポジウム開催のための環日本海地域諸大学の協力体制）を結合する形で「北東アジアにおける経済安定と発展」というテーマで国際シンポジウムが行われた。ここでは、この数年の東アジアの経済状況を踏まえ、通貨・金融問題に一つのポイントを置いた。内田安三新潟産業大学学長の挨拶に続いて、基調講演が、元山一インターナショナル会長、現新潟産業大学教授の山本利久氏により「持続的経済成長が期待されるアジアの通貨・金融情勢—その現状と展望—」というテーマで行われた。

続いてパネル・ディスカッションが、第一部、第二部の順で行われた。第一部のテーマは「社会・経済活動における各地域の『持続的発展』の確立」であり、パネリストは、モスクワ国立経営大学ボリス副学長、ハバロフスク国立経済・法律アカデミー・ロシュコフ教授、韓国・江原大学校・鄭基文教授、コーディネータは新潟大学・小山洋司教授であった。第二部のテーマは「研究・教育における国際的・大学間協力の前進」であり、パネリストは、韓国・慶一大学校・朴東烈教授、台湾・成功大学文学院院长・任世雍教授、新潟産業

大学・梅沢精教授、コーディネータは新潟産業大学・竹内明眸副学長であった。

第二日の27日には、午前は「経済1」、「外交・国際交流」、「観光」の三分科会、午後は「経済2」、「文化・歴史」、「産業」、「生物資源」の四分科会に分かれて個別報告が行われた。回を重ねるに従って内容が学際的に豊かになってきたように思う。

因みに、今回は、学際性を重んずる本学会の性格を考えて、お互いに学問の隣接領域にただ敬意を表し合うだけでなく、更に一步を進めて、お互いに隣接領域に立ち入って実質的に忌憚なくご議論頂くということを狙ってみた。口幅ったいが、文字通りの学際研究ということである。そのため、コメンテータの先生方には強引なお願いを致した場合もあったかと存じますが、この機会に、お詫びと同時に、厚く御礼申し上げます。

また、今回、レセプションの際などに、「環日本海」の名称問題を心配される声が聞かれた。勿論、このユニークな学会の名称を絶やしたくないという含みからであったと思う。自己完結的な完全な言語体系の創出は難しいと思うが、「環日本海」の国際共通語を含めた環日本海関係国際共通キーワードのglossary = 限定的な「環日本海エスペラント」の創出のようなことが考えられないものかと夢想してみた。国際、国内の使い分けを明確にするのも解決に至る一法かと。

最後に、会長先生はじめ会員の皆様に対しまして、ご協力、お力添えのほど、厚く御礼申し上げます。